

## 閉塞性動脈硬化症の治療

手足の血管及び内臓の血管が何らかの理由で狭窄あるいは閉塞してしまうことがあります。そのような疾患に対しても当科では治療を行っております。

患者さんの数が特に多いのは、動脈硬化の影響で足を栄養する血管が、徐々に狭くなっていく**閉塞性動脈硬化症**という病気です。完全に詰まってしまうと足が壊死してしまい、足の切断も必要になってくる疾患です。

足やお尻の冷感、痛み、しびれなどの症状があり、歩くと症状が強くなり、休むと治る症状（間欠性跛行と言います）が典型的です。特に喫煙との因果関係が強く、男性に多い病気です。また糖尿病の既往がある方にも発症しやすく注意が必要です。

治療は動脈硬化の予防が大切で、禁煙は必須です。まず**薬物療法**を行います。血管拡張剤や抗結晶板剤（血液をサラサラにする薬）を投与し足の血流を維持します。同時に**運動療法**も症状に応じて行います。しかし、薬物療法には限界があり、症状が強い場合、足の壊疽を起こしそうな場合は、カテーテル治療あるいは外科的バイパス手術が必要になります。

**カテーテル治療**は、局所麻酔下にカテーテルを血管に挿入し直接狭い血管を、風船で広げたり、ステントという金属を挿入し長期に血流がたもてるようにし

たりします。カテーテルで治療が難しい場合は、バイパス手術が必要となります。患者さんご自身の血管を使ったり、人工血管を使って迂回路を作り足の血流を維持する手術です。また状況によって、カテーテルとバイパス手術を組み合わせたハイブリット治療も行っております。



人工血管を使用したバイパス



自家静脈を使用したバイパス